



ローソン代表取締役社長 玉塚 元一氏  
●プロフィール

1962年東京都生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。ケース・ウェスタン・リザーブ大学経営大学院MBA取得。サンダーバード大学大学院国際経営学修士号取得。旭硝子、日本アイ・ビー・エム、ファーストリテイリング代表取締役社長兼COOを経て、2005年株式会社リヴアップを設立、代表取締役として就任。2010年株式会社ローソン入社。2014年5月同社の代表取締役社長に就任。

**進行** 急速な高齢化が進んでいますが、佐賀県の現状や取り組みを教えてください。

**古川** 佐賀県は入当りの実績医療費が全国上位を占め、がんの死亡率も高いという現状があります。そこで、「がんの死亡率20%減少」を目標に、がん検診の受診促進を図っています。県民のみならず、何でがん検診に行かないのか尋ねると、多くの方が「何かあったら嫌だから」と答えます。がんをまだ怖い病気だと認識しています。しかし、早期発見すれば、色んな治療方法があります。鳥栖市に開設した重粒子線がん治療施設「サガハイマツト」では、自宅からがん治療に出かけ、その日のうちに家庭

### 急速な高齢化と佐賀県の取り組み

# 行政と民間企業連携による地域の健康づくり

高齢化社会に向けた地域健康づくりとそれぞれの役割

高齢化社会が進む中で、地域で住民の健康づくりをどのように進めればいいのか。佐賀県の古川康知事と地域に多くの店舗網を持つコンビニエンスストア、ローソンの玉塚元一代表取締役社長が話し合いました。

溝上薬局と「ローソンミズ」を佐賀市に出店したローソンの玉塚社長は、店舗を「マチの健康ステーション」にしたいと意欲を語り、古川知事は豊かな地域づくりのため民間企業とのコラボを進めたいと話しました。



佐賀県知事 古川 康氏  
●プロフィール

1958年佐賀県生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省(現総務省)入省。自治大臣秘書官、長崎県商工労働部長・同総務部長などを経て、2003年4月の佐賀県知事選に出馬、初当選を果たす(現在3期目)。全国知事会副会長・地方分権推進特別委員会委員長、国の地方分権改革有識者会議議員などを務める。2011年3月に発足した「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」代表。

や職場に戻る事ができます。がんを漠然と恐れず、自分で予防や制御ができる病気だということを知ってもらいたいと考えています。

そのほか、認知症予防やロコモティブシンドロームの防止などを目的とした「健康アクション佐賀21」を策定し、県民の健康づくりに取り組んでいるところでは、

**進行** 高齢社会に向けたローソンの取り組みは、いかがですか。昨秋に発表した中期事業戦略では、「マチのほっとステーション」から、「マチの健康ステーション」へと大きく転換されました。

**玉塚** 日本が高齢化する中で、高齢者だけでなく、若い人も、男女関係なく健康に対する関心が高くなっています。ローソンでは10年ほど前から「美と健康」をコンセプトにした「ナチュラローソン」を立ち上げ、現在100店舗ほど展開し、減塩メニューや低カロリーの商品などを販売して



います。病院内のコンビニでは圧倒的なシェアを持ち、医師と協働して減塩のプログラムを作るなど、ミルワリユーザー(食事による解決策を提供してきました)。

病気になるのは医師の出番ですが、その前の「未病」の段階で、かに健康に過すか、食が大切で、自治体の健康診断を行ったリ、スポーツのプログラムにも取り組むなど、いろいろな取り組みを始めています。私たちは、マチの一番の関心事である健康をサポートしたいと考えています。ローソンは、それぞれの町で地域のニーズに貢献する拠点「社会インフラ」と言える存在になりたいと考えています。

**古川** 県民の健康を実現するには、ひとりひとりが自分自身に関心を持ってケアをしていくセルフメディケーションが重要です。住民の健康づくりは、行政が頑張らなければならないほど、その財源は税金のため、行政のシステムに頼るの取組が破たんします。民間企業の取組で健康管理ができれば、県民と行政、どちらにとっても幸せです。既にミズさんと「健康増進」佐賀県とミズとの連携と協力に関する協定」を結んでいます。



●佐賀市木原 ローソンミズ木原店

また、鳥越製粉さん(福岡県)と協力して、小麦と比べて糖質が少ない小麦の外皮を生地に使ったブラン(すまじ)を提供してきました。今年元日出ることで糖質がさらに少なくなり、食感がしつとりしています。ローソンのPontaカードのデータ分析によると、ブランパンのリピート率は約5割と異常値と言えるほど高く、糖尿病や糖質を気にする方から感謝の声が絶えません。ローソンの将来のためにも、「健康」というニーズにチャレンジし、このように人を引き付けるマグネット商材を育てたいと思っています。

**進行** 県との連携協定にどうですか。

**古川** 知事に触れたい、佐賀県のがんに対する取り組みに協力して、がんサロを開設しています。佐賀市木原に今月オープンした複合施設「そいよかね」でも、がんサロを実施することが決まっています。また、県のロコモティブシンドローム(ロコモ)の予防にも協力し、予防カードを店頭で配りました。ミズでは、予防カードに日々の運動を記入し、持っていくとお土産がもらえる、大きな反響がありました。カードの配布枚数は9万4千枚で、認知度の向上にお役に立てたと考えます。

### 今後が楽しみな健康ステーション構想

**進行** コラボといえば、今月、佐賀市内に調剤薬局とコンビニを併設した新しい店舗「ローソンミズ」をオープンしました。日常的な買い物で多くの人が集まるローソンさんと一緒に、調剤薬局として専門性も発揮できる店にしたいと思っています。ローソンさんからは「お店の中でお客様を名前でお呼ぶことが大事」と教えていただきました。

**玉塚** システムがどんなに進んでも、店内でのお客様との会話などの「リアル」がとても大切です。単なる物販ではダメで、お客様の名前が呼ばれる関係を持つことが重要です。ミズさんは「どうやって地域の健康をサポートしていくか」と、総合的に考えていっています。地域で長い歴史があるミズさんのノウハウとわれわれコンビニの持つ力を一緒にすると、可能性が大きく広がると期待しています。私たちが目指しているのは、連携が重要な学びの場だと思っています。国内最初の取り組みなので、ぜひいい成果を出して、さらに店舗を広げていきたいですね。

**進行** これだけ社会が複雑化する中で、行政だけでは社会のニーズに対応しづらいと考えています。企業との連携について、佐賀県ではどう考えていますか。

**古川** 実は、佐賀県は既にローソンさんとも包括協定を締結し、高速道路の基山パーキングなどローソンの店頭で佐賀県の物産を置いてもらっており、ありがたいと思っています。

今日もローソンに寄り着きましたが、顧客ひとりひとりに丁寧に接客している印象でした。県では、健康づくりについて、県民だけでなく、通して県民のみならず呼びかけていますが、すべての県民に直接かわかることはできません。高齢者の方々のコミュニティや健康の啓発活動などを、ぜひ、県内に多くの店舗を持つローソンさんには期待したいですね。

### 行政と民間企業の連携が重要

**進行** 「マチの健康ステーション」として、ローソンはどんな商品やサービスを展開していますか。

**玉塚** 何より野菜に対する期待が高いですね。質が高い、小分けした、洗った野菜を揃えてほしいというニーズが圧倒的です。野菜づくりは土壌づくりがとても大切です。私たちは専用の農場「ローソンファーム」で、中嶋農法を取り入れて野菜を作り提供しています。土壌のミネラルバランスを整える中嶋農法で育てたレタスやキュウリなどの野菜は、とても元気で生き生きしています。これからは、健康に配慮した野菜、安心して安全な食を食べてほしいと思っています。



ミズ代表取締役社長 木元 伸一氏  
[進行]

また、鳥越製粉さん(福岡県)と協力して、小麦と比べて糖質が少ない小麦の外皮を生地に使ったブラン(すまじ)を提供してきました。今年元日出ることで糖質がさらに少なくなり、食感がしつとりしています。ローソンのPontaカードのデータ分析によると、ブランパンのリピート率は約5割と異常値と言えるほど高く、糖尿病や糖質を気にする方から感謝の声が絶えません。ローソンの将来のためにも、「健康」というニーズにチャレンジし、このように人を引き付けるマグネット商材を育てたいと思っています。

**進行** 県との連携協定にどうですか。

**古川** 知事に触れたい、佐賀県のがんに対する取り組みに協力して、がんサロを開設しています。佐賀市木原に今月オープンした複合施設「そいよかね」でも、がんサロを実施することが決まっています。また、県のロコモティブシンドローム(ロコモ)の予防にも協力し、予防カードを店頭で配りました。ミズでは、予防カードに日々の運動を記入し、持っていくとお土産がもらえる、大きな反響がありました。カードの配布枚数は9万4千枚で、認知度の向上にお役に立てたと考えます。

**進行** これだけ社会が複雑化する中で、行政だけでは社会のニーズに対応しづらいと考えています。企業との連携について、佐賀県ではどう考えていますか。

**古川** 実は、佐賀県は既にローソンさんとも包括協定を締結し、高速道路の基山パーキングなどローソンの店頭で佐賀県の物産を置いてもらっており、ありがたいと思っています。

今日もローソンに寄り着きましたが、顧客ひとりひとりに丁寧に接客している印象でした。県では、健康づくりについて、県民だけでなく、通して県民のみならず呼びかけていますが、すべての県民に直接かわかることはできません。高齢者の方々のコミュニティや健康の啓発活動などを、ぜひ、県内に多くの店舗を持つローソンさんには期待したいですね。

今年売上100億円達成への感謝の心をお伝えたく、地域高齢者の生涯包括ケアを目的とした「スマートシニアコミュニティ「そいよかね」」を開設しました。

■クリニックモール ■有料老人ホーム ■ローソンミズ ■マルボロの北島

健康と生きがいのコミュニティ

## そいよかね

あなたのそばで家族のように Produce by MIZ

株式会社ミズ 佐賀市水ヶ江1-1-11 TEL.0952-22-7974

**進行** コラボレーションで言えば、「ローソンミズ」は調剤薬局併設型のコンビニに加え、内科など4つの診療機関と住宅型有料老人ホームなどが集合しています。

医療、介護、コンビニ、ドラッグストア、調剤薬局、銘菓店と連携し、地区高齢者のためのコミュニティを目指しています。地域住民の皆さんに「そいよかね」と言われることを願っています。

**古川** デリバリーは、薬局には前々からあったわけですが、今後はコンビニも加わり、家から出ることができない人のために、より重要になってくるのではないですか。

**玉塚** 間違いなくデリバリーはこれから増えていくと思いますし、重要です。商売が成り立つように物流のラインに乗せるなど組織的に考えて、今は実験的にですが、これから、いろいろな取り組みを積極的に進めたいと思っています。

**進行** 今回、「ローソンミズ」では、ネット通販も同時に開設しました。介護用品や薬をネットでも買えるよう、準備を進めています。調剤薬局の機能を生かし、パソコンやタブレット端末を通して24時間いつでも薬の専門家に相談することができるよう、地域に安全と安心をお届けできたいと思っています。

**古川** 地域に住んでいるひとりひとりの様子がとても気になります。そんな中で、ネット通販やデリバリーなどの注文があれば、元気に暮らしていると感じ、安心できます。ICTも活用して、ローソン、ミズ、佐賀県3者が連携して、住民の健康を地域で支える新たな展開が作られればいいですね。

**進行** 今日はお話ありがとうございました。